

Mazroc

マツロクプラス
2024. May

マツ六株式会社

Topics

- ✓ 理想のすまいと建築フェア出展します!
- ✓ バリアフリー2024ご来場御礼
- ✓ 専門家コラム 感想募集
- ✓ 設置例・施工例写真大募集!
- ✓ 作業療法士からみた住宅改修
- ✓ 建築から見るデザイン紀行 etc...

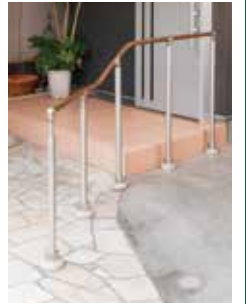
出展します!

フリーRレールをはじめ、
新商品など多数展示!

好評発売中 フリーRレール



現場で
自由に曲がる
屋外用手すり。



ぜひ、
展示会場で
ご覧ください!

理想のすまいと 建築フェア2024

INTEXX
建築材料・住宅設備総合展

5月30日(木)・31日(金)
10:00~17:00 インテックス大阪

小間番号
601



マツ六ブースにて皆様のお越しをお待ちしています



ご来場ありがとうございました

ご感想をお待ちしています

第30回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展

バリアフリー 2024



4月に発売した新商品をはじめ、福祉用具を中心に多数展示を行いました。
数年ぶりの出展にもかかわらず多くの方々にご来場いただき、誠にありがとうございました。



専門家コラム 感想募集

2014年4月に理学療法士・作業療法士の先生方によるコラムの連載がスタートして早10年。この度、読者様からのご意見やご感想をお寄せいただけるフォームを開設いたしました。ぜひ、皆様のお声をお聞かせください。

ご執筆いただいている先生はこちらの二人です



Sport(エスポー)
CBRディレクター
理学療法士
和田 圭市 先生



社会・生活環境研究所
作業療法士
二級建築士
山田 隆人 先生

ご協力いただいた方の中から毎月抽選で5名様にプレゼントもご用意! 詳細はこちらをご覧ください。

<https://event.mazroc.com/column-goiken>



好評企画
第7弾!

設置例
施工例

写真大募集

キャンペーン実施中! 6月30日(日)まで ご応募お待ちしております!



応募特典あり!

特典の内容や詳しい募集要項、ご応募は
こちらから

Check!



福祉住環境
コーディネーター

道

Q

スマートウェルネス住宅等推進事業では、(1)【A】の整備、(2)公的賃貸住宅団地などにおける併設施設の整備、(3)高齢者等の居住の安定確保・健康維持増進に寄与する先導的な住まいづくりの取り組みを支援するため、国が建築主や民間事業者などに補助を行う。

A

- ①シルバーハウジング
- ②住宅型有料老人ホーム
- ③ケアハウス
- ④サービス付き高齢者向け住宅

答えは裏面へ



コラムに関する
ご意見・ご感想を
お寄せください！

ご協力いただいた方の中から
毎月抽選でプレゼントも！
詳細は下記をご覧ください。

[https://event.mazroc.com/
column-goiken](https://event.mazroc.com/column-goiken)

住宅改修

生活機能の変化に合わせた居住環境調整には 定期的なモニタリングが必要！

社会・生活環境研究所
作業療法士
二級建築士
山田 隆人

居住環境調整は、支援の対象となる方々の生活機能に合致して初めて力を発揮します。利用者自身は日々変化していますので、定期的に生活状況をモニタリングし、変化に合わせた機器の調整等を行う必要があります。

大腿骨骨折を例にとると、大腿骨頸部骨折術後の合併症として骨頭壊死、遅延性骨頭圧潰が挙げられます。これらは術後半年以上を経過した段階で明らかになることが多いとされています。このことは、退院後に生活活動を遂行する中で、徐々に生活機能に合わない環境になる可能性があることを示唆しています。生活機能と居住環境の乖離を抑えて行くには、6ヶ月程度でモニタリングを行う必要があると思われます(図1)。



図1)環境調整後のモニタリング

日本福祉用具供給協会が提示している「福祉用具の利用安全のための福祉用具貸与事業所の体制・多職種連携を強化するための手引き」において、協会が実施した調査で、福祉用具貸与と事業者のモニタリング・メンテナンスは6ヶ月に1回行われていたことが示されています。更に、モニタリングの際には、以下の点を情報収集するよう示しています。

1) 疾病・疾患や服薬による体調や動作の変化が福祉用具の利用に影響を与えていないか。

- 2) 疾病・疾患や服薬にはどのような留意事項があるか。
- 3) 利用者の体調の好不調で動作に違いがあるか。
- 4) 介護者の疾病・疾患・行動・動作が福祉用具の利用に影響する可能性があるか。
- 5) 転倒リスクによる事故等の可能性は考えられるか。
- 6) 利用者・家族の状況は関与する職種の評価・認識とあっているか。

これらモニタリングで得た情報を元に、生活機能に応じた支援を検討していくことになります。その際に、加齢による影響を踏まえた支援を検討しましょう。

大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折の年間人口10万人あたりの年齢階級別・骨折型別発生率において、70代後半に大腿骨頸部骨折の発生率が高く、80代後半では大腿骨骨幹部骨折の発生率が高くなることが報告されています。加齢に伴い大腿骨の太い部分の骨折が増加しており、身体への負荷を軽減できる環境支援の方法を変える必要があります。

これらに加えて、経年変化による福祉用具や改修部位の劣化等の配慮も必要になることをお忘れなく。

参考文献

- 1) 一般社団法人日本福祉用具供給協会、福祉用具の利用安全のための福祉用具貸与事業所の体制・多職種連携を強化するための手引き、https://www.fukushiyogu.or.jp/guide/detail_2023_guide.html, 2023.3
- 2) 日本整形外科学会・大腿骨頸部・転子部骨折診療ガイドライン2021(改訂第3版)、<https://minds.jcqh.or.jp/summary/c00625/>
- 3) 川端悠士・大腿骨頸部骨折、理学療法ジャーナル, 51(2), 171-177, 2017

新コーナー

建築から見る

デザイン紀行 1

～過去から現在そして未来へ～



桂離宮 (京都府・京都市)

桂離宮は、1600年から1663年に八条宮初代智仁親王と二代智忠親王によって造られた別荘建築。日本最高の名園とも言われる庭園との見事な調和が、訪れる人を魅了しつつづけています。



飛び石や石段にも自然のままの岩を配し、空間にメリハリが。自然が生み出したありのままの姿や佇まいに美を見出すという、日本の美意識が感じられます。



門柱や建物の柱は皮付きの丸太で、曲がっていたりカタチも様々。自然の状態をそのまま生かしています。

書院は雨の日でも障子のまま。調湿機能を熟知していたからこそその機能美です。見た目の美しさではなく実用性や生活者の知恵によって生まれたカタチに美を見出すのが日本の概念。

サステナビリティの観点においても、自然の素材を使う事や、手入れをすれば300年が経った今でも美しさを保ち続ける桂離宮の建築は、今まさに参考にすべき日本の建築・工法であると思います。

未来を変える一歩を
いっしょに。

たよれールシリーズ

MOTOE
モトエプロジェクト

地球に優しい福祉用具の
サーキュラーエコノミー。



福祉住環境
コーディネーター 道の答え:

④ サービス付き高齢者向け住宅

マツ六公式SNS
更新中!



Instagram ▶ @mazrocofficial
X ▶ @mazrocofficial1

Facebook ▶ facebook.com/mazroc/
YouTube ▶ @mazrocsho

発行元: マツ六株式会社

〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺1丁目5番47号
TEL 06-6774-2255 (代表) FAX 06-6774-2248

<https://www.mazroc.co.jp/>

MAZROC 2405-1

